



心臓・脳血管センターのご紹介

市立病院は平成16年7月に現在地へ新築移転し、それを機に救急医療の充実を図ってきました。移転当初と比べ、医師、看護師をはじめとする医療スタッフが充実し、多くの患者さんを受け入れてきました。より重篤で緊急の処置が必要な患者さんについては、集中治療室（ICU）で診療してきましたが、各科の重症患者さんの増加により、十分に受け入れることが困難になってきました。

特に、心臓病や脳血管疾患などは、救急医療においても重症度が高く、緊急の処置が必要で、そのような患者さんを専門的に受け入れる施設の整備が求められてきました。

今回開院する「心臓・脳血管センター」では、心臓疾患を循環器センター（CCU）で、それ以外の重篤な疾患を集中治療室（ICU）で診療します。

また、センター内には透析治療や夜間の小児医療を行う施設なども併設します。

循環器センター (CCU)

循環器センターは、狭心症、心筋梗塞、大動脈瘤破裂、急性大動脈解離など致死率が高く、かつ緊急治療を要する心臓・大血管疾患を集中的に治療する施設です。

同じフロア内には血管撮影室を備えています。血管撮影室では、救急車で搬送された患者さんの冠状動脈（心臓の栄養血管）を迅速に撮影し、閉塞があれば直ちにバルーン付きカテーテルで開通させ、その後の血流を保持するための血管内ステントの植え込み術を実施します。また、心臓血管外科の新設により、大動脈瘤のステント植え込みによる治療も可能となります。

また、今年の秋には、最新の設備をもつ心臓血管外科手術室が、循環器センターと直結して本館内に新設されます。カテーテルでの治療が困難な患者さんは、循環器センターでの診察後に同手術室へ搬送され、緊急手術を受けることが可能となります。手術後は同じフロア内のCCU（冠動脈疾患集中治療室）に入院し、循環器内科と心臓血管外科の医療チーム及び看護チームがお互いに連携して患者さんの集中管理を行い、早期の社会復帰ができるよう治療に専念します。

循環器内科のスタッフは従来の循環器専門医5名に加え、新たに冠動脈疾患治療専門医を1名、不整脈治療専門医を1名増員します。緊急時にも対応できるように24時間体制で患者さんを受け入れ、冠動脈疾患治療に付随する不整脈診療（カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー植え込み手術等）も充実させていきます。

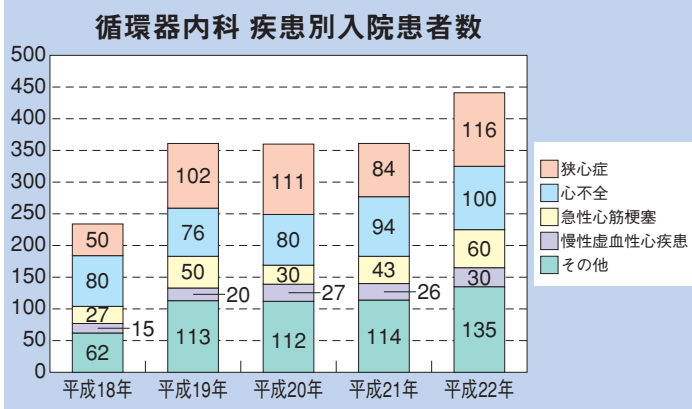
心臓血管外科のスタッフは東京医科歯科大学心臓血管外科の協力により高度な手術が行えるチームが派遣されます。

集中治療室 (ICU)

集中治療室（ICU）では心臓疾患以外の患者さんの診療を行います。脳卒中をはじめ、外傷、外科手術後の重症患者さんが対象となります。これまでの実績では、救急外来を受診後に直接ICUに入室となる患者さんが約80%を占め、手術後の患者さんがそれ以外を占めます。

救急医療が求められる疾患の中でも、脳卒中は今後も高い発症率が予測されるもののひとつです。脳卒中は高齢者だけの疾患ではありません。40代が5%、50代も合わせると約15%にもなります。

脳卒中治療の進歩とともに、先進的な施設では脳卒中ケアユニット（SCU）が全国に設立されています。多くの研究でSCUにおける治療の好成績が報告されています。SCUには脳卒中専用ベッドがあり、治療に精通した専属スタッフによって迅速な医療が提供されるため、一般病棟に比べると病気の回復がはるかに優れています。



中核病院として一層の発展を



草加市長 田中 和明

市民の皆様が待望し、市立病院の先進医療を担う「心臓・脳血管センター」がここに完成しました。

このセンター建設にあたり、ご理解とご支援を賜りました市民の皆様、草加市議会、草加八潮医師会を始めとする関係者の皆様に深く感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび完成しましたセンター1階には、草加八潮医師会のご協力により運営する「子ども急病夜間クリニック」、草加市救急隊員の教育拠点施設ともな

る「救急ステーション」を設置し、上階には、心筋梗塞など心疾患や脳卒中など一刻を争う重症患者さんに対し、より専門的・高度医療を行う集中治療室（CCU・ICU）、血液浄化を行う透析室を新たに設置するなど、医療環境の整備・充実を図りました。

さらに、本年度4月に血液内科・内分泌内科・膠原病内科・腎臓内科・心臓血管外科・救急科を新設し、これまでの18診療科から24診療科へと拡充しました。市立病院はこれからも市民の皆様から信頼される病院となるよう努めてまいります。また、地域の医療機関や関連大学である東京医科歯科大学とさらに緊密な連携を深め、より一層地域の中核病院として発展していくことを祈念いたします。

力を合わせて、信頼される市立病院へ



草加市立病院事業管理者(兼)病院長 高元 俊彦

草加市立病院は、平成16年に新病院建設移転が実現し、2次救急病院の拠点として出発を致しました。その後、一時的に産科医療の中止など厳しい運営状態にも陥りましたが、東京医科歯科大学の支援を受けながら産科の復活、小児時間外診療の拡充、救急診療科の設置を果たし、現在では救急車受け入れ実績も県内で上位を占めています。

このような中で、草加市行政、市議会のご支援の下に、次のステップである心臓・脳血管障害の急性期医療を担う3次救

急体制の確立をめざし、センター建設の準備を進めて参りました。

市民の方々が「医療を草加で完結して欲しい」と願われる気持ちを大切にしていきたいと思っておりますが、救急医療は、その規模において地元医師会の先生方との連携や、近隣の基幹病院との共同事業無くしては成り立たないものです。

たとえて言うなら、まさにラグビーチームを形成するように、お互いがスクラムを組むパートナーとして認識し、自らが頼りにされるポジションにつかなければなりません。

私たちは、草加の急性期医療を牽引する気概を持ち、市民の健康を守るミッションにこれからも誠実に取り組んで参りたいと思っておりますので、一層のご支援をお願い致します。